



# 花いっぱい自分友だち御一小

御前崎市立第一小学校 学校だより 2月号

## 続 「ありがとう」であふれる3学期に

1月号では、「ありがとう」であふれる学校をつくろうとよびかけているとお伝えしました。

先日、4～6年生を対象に、矢澤先生を講師にお迎えし、「言葉の力」講座を行いました。矢澤さんのお話は次のものでした。



言葉は自分の分身。使う言葉は自分の行動を決めるんだよ。言葉は、何倍にもなって自分に返ってきます。誰かに否定的な言葉を投げかけると、それを一番たくさん浴びるのは自分。「ありがとう」「大丈夫」といった”プラス言葉”を使うことで友達の思いやることができます。また「大丈夫」「絶対できる」などの言葉で自らを元気づけたりできるんです。皆さんの人生を豊かにするために前向きな言葉を日常的に使ってください。

4年生の2クラスが学級閉鎖中だったため、録画による講話になってしまったことが残念ですが、どの学年の子どもたちも、矢澤さんのお話を自分ごとととらえ、とても真剣に受け止めていました。優しさを形にするのは言葉です。



来校のお客さまには、第一小の子どもたちの元気さ、発表の生き生きとした様子、お客さまに屈託なく話しかけるのびのびさをほめていただきました。プラス言葉は、未来プロジェクトで子どもたちがめざす「思いやり」「勇気」のある学校づくりにはどうしても必要なことだと考えています。

## さっそく、言葉の力を実感する場面がありました

先日の夕方、職員がしょんぼりして電話を手にしていました。友だち同士のトラブルでケガが生じてしまった報告をするとのこと。よくない報告は気が重いものです。

でも、電話が終わると少し笑顔が戻っていました。聞けば、手を出してしまった子のお母さんは「つらいやあ。先生すみません。謝りに行った方がいいですよねえ。ご迷惑をおかけしました。」と伝えてくださったと。けがをした子のお母さんは「え？うちの子がケガさせてしまったんですか？ちがう？けがをした？ならいいです。それならよかったです。小さい頃はけがをさせることがあったから、てっきり……。お互いさまですから。」と。

大切なお子さんをお預かりしているのですから、ケガはあってはならないことです。でも、30人以上の子どもたち、休み時間のいざこざは発見が遅れることもあります。落ち込んでいた担任を勇気づけてくれたのは、上述の二人のお母さんです。

ハラハラしながら電話を見ていた私も、自子（自己）中心でも他罰でもないお二人の考え方に救われました。担任の笑顔を見て本当にありがたく思ったできごとです。

(39. 7の発熱に驚愕しつつ、お休みをいただいたけど元気になった校長 仁平美和子)

